

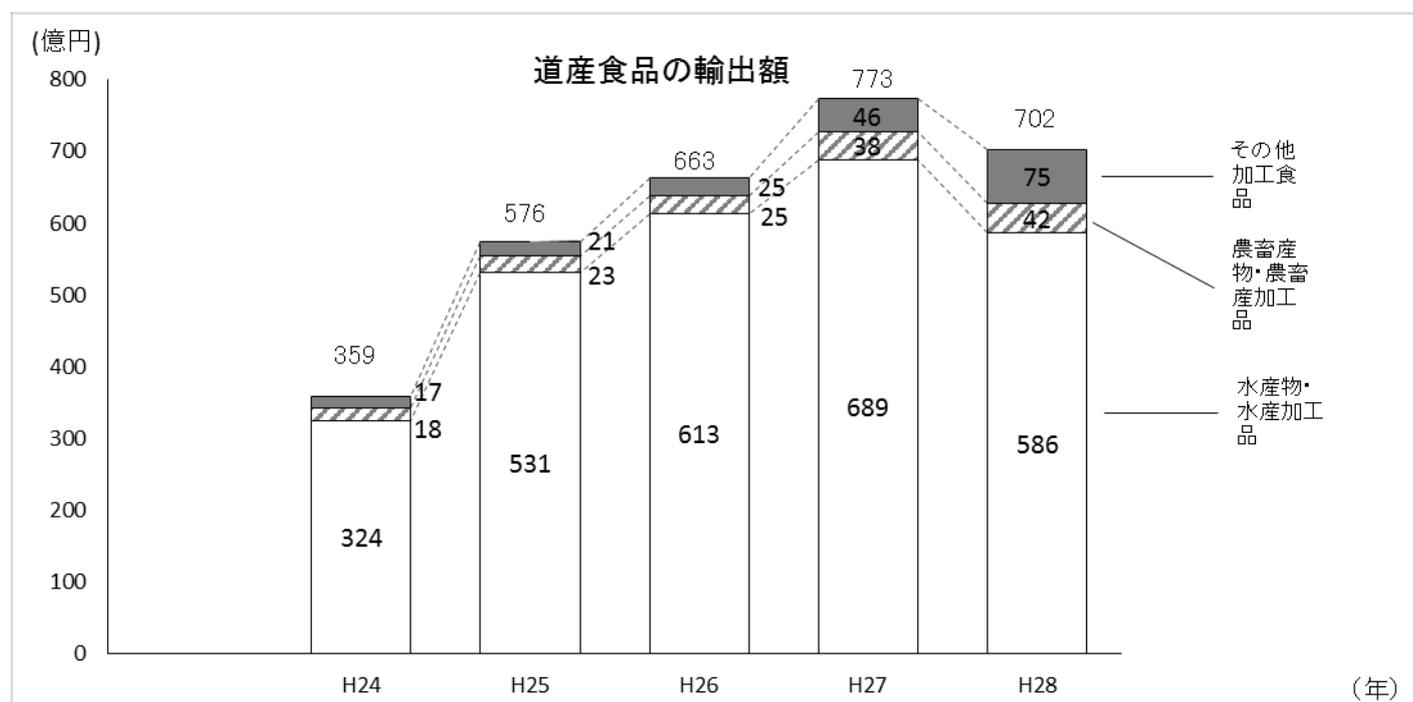
北海道食の輸出拡大戦略推進状況報告書

平成 28 年輸出実績／平成 28 年度取組状況

平成 29 年 4 月
北海道

1 輸出の現状（品目別の動向等）

平成 28 年の道産食品の輸出額は、その他加工食品や農畜産物・農畜産加工品が増加する中、主力の水産物・水産物加工品の大幅な減少により、702 億円と前年から 71 億円（9.1%）の減となった。期別では、上期（1～6 月）は、その他加工食品や農畜産物・農畜産加工品の輸出額が増加する一方で、ホタテガイなどの水産物・水産物加工品が 225 億円と前年同期に対し大幅に減少し、上期トータルでは 277 億円と前年同期比 25.7%の減、下期（7 月～12 月）は、ホタテガイの輸出が増加し、その他加工食品も引き続き好調であったため、下期トータルでは 425 億円と前年同期比 6.3%の増となった。



(1) 水産物・水産加工品

ア 概況

- 平成 28 年の輸出額は 586 億円で前年から 103 億円（15.0%）の減となった。平成 28 年には、水産物・水産加工品の輸出額は全体として減少しているが、水産物・水産加工品の輸出額全体の約 6 割を占めるホタテガイの輸出減の影響が大きい。

イ (品目別) ホタテガイ

- 平成 28 年のホタテガイの輸出額（387 億円（前年比 12.8%減））は、上期に生産量の減少の影響などにより減少したが（前年同期比 39.7%減）、下期に入り回復傾向が見られた。
- オホーツク海域では、平成 26 年度冬の大型低気圧に伴い、放流した稚貝が斃死したことなどにより減産しているが、被災した漁場の耕耘や種苗の追加放流の取組が行われており、順調に生育すれば、平成 30 年には生産が回復する見込みとなっている。
- 噴火湾海域では平成 28 年の台風の影響などにより減産となったが、平成 28 年春に採取した稚貝は順調に成長しており、適切な密度管理などを進めることで、平成 30 年には生産の回復が見込まれる。
- 生産の回復に合わせ、EU やアメリカが求める衛生管理手法である HACCP の認定取得の促進が進められており、今後、輸出の安定・増加が期待される。

ウ (品目別) サケ・マス

- ・秋サケについては、近年、生産が減少しており、平成 28 年のサケ全体の生産は数量、金額とも前年を下回った（生産量 8.3 万 t（前年比 29.7%減）、生産額 526 億円（前年比 13.7%減））。
- ・輸出の大半を占める秋サケの加工原料輸出の減少などにより、サケ・マスの輸出額は全体で減少し、前年比 4.0%減の 59 億円となった。
- ・秋サケの加工原料輸出は、主に中国向けに行っているが、近年、中国国内の人件費高騰に伴う加工業者の廃業や規模の縮小により減少傾向にあるため、生産者団体と連携し、ベトナムやタイなど輸出先国の多角化等に取り組むこととしており、効果の発揮が期待される。

エ (品目別) その他

- ・東南アジアを中心に、近年、漁獲が増加しているブリ、サバ、イワシの鮮魚や秋サケの高次加工品など付加価値の高い水産物のプロモーションなどを進めており、今後、販路の拡大が期待される。

(2) 農畜産物・農畜産加工品

ア 概況

- ・平成 28 年の輸出額は 42 億円で前年から 4 億円 (9.5%) 増。主な内訳は、ながいも 18 億円（前年から 0.2 億円 (1.0%) 減）、たまねぎ 8.8 億円（前年から 3.1 億円 (55.5%) 増）、ミルク等 7.2 億円（前年から 0.9 億円 (13.9%) 増）、米 2.5 億円（前年から 1 億円 (63.0%) 増）となっている。

イ (品目別) 米・米加工品

- ・米については、生産者団体において現地の拠点等を活用した販路開拓を進めているほか、現地で精米・販売拠点を持つ道内企業と農協との連携による玄米の輸出が拡大するなど、全体として増加しており、今後、輸出拡大が期待できる。

ウ (品目別) 青果物

ながいも：

- ・農畜産物・農畜産加工品の輸出額の約 4 割を占めるながいもは、8 月の大雨による湿害の影響により品質が悪化し、輸出向けの大型規格の生産が減少した結果、輸出量が 1 割以上減少した。
- ・作付面積は近年、拡大傾向にあり、今後も安定的な輸出が期待される。

たまねぎ：

- ・豊作であった平成 27 年産を中心とした輸出により、前年を上回った (H27 年 5.7 億円→H28 年 8.8 億円)。
- ・平成 27 年からの台湾、韓国への輸出に加え、ロシアなど新たな市場開拓の機運も高まっており、今後も一定量の輸出が期待される。

エ (品目別) 牛肉

- ・相手国向け輸出食肉取扱施設の整備と相まって、北海道産牛肉の輸出は増加傾向（輸出額 4 千万円（前年比 27.7%増））にある。
- ・海外において「北海道ブランド」の評価が高まる中、交雑種やホルスタイン種雄を含めた多様な牛肉を豊富に生産する本道の強みを活かし、海外へのプロモーションやフード特区制度なども活用した輸出施設の拡充などが進められており、今後、一層の輸出拡大が期待される。

オ (品目別) その他

- ・牛乳（ミルク等）については、香港を中心としたアジア向けの L L 牛乳の販路が確立されており北海道ブランドを背景に現地のニーズも高いことから、輸出は増加傾向にある。最近では、消費期限を延ばした牛乳といったより付加価値の高い商品の輸出実証に向けた取組も見られる。

(3) その他加工食品

ア 概況

- ・平成28年の輸出額は75億円で前年から29億円(62.8%)増。主な内訳は、スイーツが55億円、野菜調製品(加工・調理品)8.1億円、調味料1.8億円となっている。
- ・増加分の大半はスイーツで前年から23億円(72.6%)増。スイーツ以外(野菜調整品、調味料など)の輸出額は前年から5.8億円(40.9%)増加している。

イ (品目別) スイーツ(菓子類)

- ・海外進出を積極的に行った道内企業のチョコレート製品やベーカリー製品の輸出が伸び、こうした企業においては生産設備や海外拠点の拡充に向けた取組も進められているため、今後、更なる輸出拡大が期待される。
- ・海外拠点をもたない企業の商品についても、「北海道どさんこプラザ」などを活用したプロモーションや商談、テストマーケティングなどにより、ASEANなどへの販路開拓が進められており、外国人観光客をターゲットにした地域商品の知名度向上に向けた取組と相まって、今後、輸出品目の更なる拡大が期待される。

ウ (品目別) その他

- ・海外での日本食ブームを背景に、関連品目の輸出が拡大している。中華麺(生麺)の輸出額は前年比で63.8%増の8千万円となっており、今後もラーメン店をはじめとした道内飲食店の海外進出と相まって、タレ、スープ、味噌、醤油、わさびなど多様な商品の販路拡大が期待される。

【品目別輸出額】

(単位:百万円)

項目	H27年			H28年			増減率		
	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期
水産物・水産加工品	68,873	34,181	34,692	58,574	22,492	36,083	△15.0%	△34.2%	+4.0%
農畜産物・農畜産加工品	3,794	1,444	2,350	4,153	2,097	2,055	+9.5%	+45.2%	△12.5%
その他加工食品	4,598	1,647	2,951	7,484	3,102	4,382	+62.8%	+88.3%	+48.5%
合計	77,264	37,272	39,992	70,211	27,691	42,520	△9.1%	△25.7%	+6.3%

※財務省の貿易統計(道内港通関分)に基づき北海道が作成。以下の表も同様。

※「増減率」は千円単位で計算。端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。以下の表も同様。

【主要な品目の輸出額の推移】

(単位:百万円)

品目	H24年	H27年	H28年	H27→H28 増減率
水産物・水産加工品	32,424	68,873	58,574	△15.0%
ホタテガイ	10,776	44,336	38,676	△12.8%
サケ・マス	5,415	6,132	5,888	△4.0%
農畜産物・農畜産加工品	1,774	3,794	4,153	+9.5%
ながいも	1,199	1,852	1,834	△1.0%
たまねぎ	1	566	880	+55.5%
その他加工食品	1,698	4,598	7,484	+62.8%
スイーツ	926	3,169	5,472	+72.6%
パスタ・麺類	112	116	121	+3.9%
合計	35,895	77,264	70,211	△9.1%

※ホタテガイ: H28生産量295,325t(対前年比△19.5%)

【主な地域別の輸出額】

(単位:百万円)

地域	H27年	H28年	増減率	主な増減品目
ASEAN	11,012	8,657	△21.4%	ホタテガイ△4,130(66.3%減)、スイーツ+621(75.0%増)
中国、台湾、香港、韓国	51,642	52,014	+0.7%	スイーツ+1,666(85.4%増)、ホタテガイ+1,883(6.9%増)、ナマコ△2,415(19.2%減)、たまねぎ+305(54.6%増)
ロシア	937	380	△59.5%	サンマ(冷凍)△250(72.3%減)
欧米(除ロシア)	12,149	8,717	△28.2%	ホタテガイ△3,501(32.1%減)、パスタ・麺類+33(63.7%増)
中東	18	61	+243.1%	スイーツ+31(230.1%増)

2 平成 28 年度の主な取組

(1) 道産食品の安定生産と輸出拡大

地域や生産者団体、関係機関との連携により、養殖技術の普及や、生産基盤の整備などに総合的に取り組み、農水産品の生産の回復と安定や、輸出体制を整備するとともに、生産状況・市場ニーズを踏まえた販路開拓に向けた取組などを進め、輸出の拡大を図ってきたところ。

ア 水産物・水産加工品

項目	取組内容	評価
水産物の安定生産に向けた生産基盤の整備等		〈成果〉 対米・EU-HACCPの新規認定が進展 新たな品目について市場の特性やニーズなどを把握
ホタテガイの生産回復・安定	オホーツク海域： 災害に強い漁場づくりに向けて、波浪の観測データや底質、水深等の調査結果をもとに、漁場のハザードマップを水産試験場で作成（継続中） 噴火湾海域： 海水温やホタテガイの生育状況などのモニタリング情報を漁業者へ提供し、稚貝の育成から生産・出荷までの適切な密度管理や適期の作業など、養殖技術の指導を強化	
国際認証取得の一層の促進		〈課題〉 ホタテガイの早期の生産回復と安定に向けて取組の継続が必要
HACCP認定施設の取得促進	対米・EU-HACCPの導入支援のため、全道2カ所において事業者向け講習会を開催（道産水産物輸出市場対策事業費）。	
輸出品目の拡大		HACCP認定に取り組む企業の拡大に向けて取組の継続が必要 各品目の普及・定着に向けて販促などの取組の継続が必要
輸出先国の多角化・輸出品目の拡大	東南アジアなどを対象に、イワシやサバの生鮮品、秋サケの高次加工品など、新たな品目のマーケット拡大に向けた市場調査やPR販売を実施（道産水産物販路拡大推進事業）。 道・ホクレン・ぎょれんの3者の連携により、バンコクにおいて現地の飲食店等を対象として、日本食のメニュー提案形式による道産農水産品のプロモーションを実施（道産農水産品の「ブランド化」推進事業）	

イ 農畜産物・農畜産加工品

項目	取組内容	評価
生産者の輸出機運の醸成		(成果) 輸出に取り組む事業者の拡大や、輸出施設の整備が一定程度進展
生産者向け研修会の開催等	専門家の派遣や地域における研修会の開催など、個別生産者を対象とした輸出サポート体制の構築（道産農畜産物輸出促進支援事業）	
輸出体制の整備		認知度向上や現地バイヤー等とのネットワークづくりが一定程度進展
牛肉輸出施設の拡大	シンガポール向けの食肉輸出施設の認証（十勝）、UAE向けハラールと畜・加工施設の認証（北見）を取得	
	フード特区の優遇措置を活用した対米牛肉輸出施設の基準に対応可能など畜・加工施設の整備（北海道食産業総合振興機構負担金）	
	対米仕様と畜場の新設に伴う、アメリカ向け輸出牛肉に係るアメリカの衛生基準に適合した食肉検査体制の整備（対米輸出と畜場の新規整備計画に伴う食肉検査体制整備事業）	
ブランド力の向上	生産者団体による「十勝川西ながいも」の地理的表示保護制度（GI）の登録	〈課題〉 輸出施設や国際認証などの輸出体制整備の取組が引き続き必要
地域の関係者の連携	北見産たまねぎの輸出本格化に向けた地域における協議会の設立、ロシアでのプロモーションの実施	
販路拡大・プロモーション		認知度向上を図り継続的な取引実現に結び付ける取組が重要
品目横断によるメニュー提案型プロモーション	道・ホクレン・ぎょれんの3者の連携により、バンコクにおいて現地の飲食店等を対象として、日本食のメニュー提案形式による道産農水産物のプロモーションを実施（道産農水産物の「ブランド化」推進事業）	
品目ごとの販路開拓（米・米加工品）	米穀卸と連携した上海における北海道米の知事トップセールス、専門商社と連携したハワイへの玄米テスト輸出、酒類メーカーと連携したシンガポールでのプロモーションを実施（道産農畜産物輸出品目拡大総合事業）	
品目ごとの販路開拓（牛肉）	シンガポール、タイ、ベトナムにおいて、百貨店、飲食店等のバイヤーを対象に北海道産牛肉（交雑種、ホルスタイン種）のプロモーションを実施（道産農畜産物輸出品目拡大総合事業）	
品目ごとの販路開拓（青果物）	メロン等青果物に係るシンガポール向けの航空物流の実証や台湾向けの鮮度保持物流技術の実証といった物流の実証と組み合わせたプロモーションの実施（道産農畜産物輸出品目総合拡大事業）	

ウ その他加工食品

項目	取組内容	評価
輸出に取り組む企業のマーケティング支援		(成果) どさんこプラザを活用した地域産品の販路開拓機能が一定程度形成
外国人の嗜好の把握などデータ収集	国内・道内のどさんこプラザの免税店対応などインバウンド向け販売データの収集・分析による外国人の嗜好の把握	
企業のマーケティング支援、継続的な海外販路	シンガポールのどさんこプラザにおけるテスト販売を通じた企業等のマーケティング支援（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	商談会を通じ海外企業との商談が進展 〈課題〉 どさんこプラザのノウハウとネットワークを効果的に活用するなど、継続的・安定的な販路開拓の取組が重要
新たな販路開拓の促進		
スイーツや機能性食品など輸出品目の拡大	海外5か国からバイヤーを招へいし道内菓子メーカーとの商談会及び生産現場視察を実施（道産スイーツ海外ブランド強化事業）	
	バイオ工業会と連携し、シンガポールにおいて現地のドラッグストアや健康食品卸を参集した道産機能性素材・食品に関するセミナー及び商談会の開催など、業界団体と連携し道内企業の参加によるスイーツと機能性食品の海外商談会をシンガポール、タイ、香港、台湾で実施（新規市場食需要開拓推進事業）	
	札幌のどさんこプラザなどにおいて実施した「ヘルシーDフェア」を活用しながらインバウンド観光客向けのプロモーションを、海外事務所における情報発信も組み合わせながら実施	

(2) 輸出に取り組む企業等の裾野の拡大

食クラスターやフード特区、どさんこプラザのネットワークの活用などにより、輸出に取り組む企業のすそ野の拡大や輸出向け商品の掘り起こしを図ってきた。

項目	取組内容	評価
機運の醸成や掘り起こし		〈成果〉 道内各地域において、輸出に挑戦する機運が一定程度醸成
食クラスターやフード特区の取組を通じた企業の掘り起こし	支援機関によるバイヤー招へい事業と連携し地域の商品の磨き上げを支援（食品製造業のマーケティング力強化事業） フード特区機構に配置したアドバイザーによる輸出に取り組む企業等の掘り起こし（道産食品販路拡大推進事業）	
地域への海外バイヤーの招へい	海外のバイヤー等を対象とした釧路・根室管内の生産現場等を巡るモニターツアーを実施	海外どさんこプラザのテスト販売を通じた輸出商品が一定程度拡大
海外アンテナショップでのテスト販売	シンガポールのどさんこプラザにおけるテスト販売を通じた企業等のマーケティング支援（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	
輸出に取り組む地域や企業の支援		〈課題〉 輸出事業者や品目の更なる拡大に向け、海外ニーズを捉えた地域商品の発掘・磨き上げの機能充実が重要。 取引実現に向け、効率的な物流ルート形成や北海道ブランドの一層の浸透の取組が重要
海外に向けた地域の情報発信力強化の支援	市町村・生産者・企業など地域の関係者が一体となった海外展開の取組を支援（地域発海外展開プロジェクト発掘推進事業）	
外国人の嗜好の把握などデータ収集	国内・道内のどさんこプラザの免税店対応によるインバウンド向け販売データの収集・分析による外国人の嗜好の把握	

(3) 効率的な物流体制の構築

新規航空路線や鮮度保持技術などを活用した効率的な物流ルートの構築に向けた取組を進めてきた。

項目	取組内容	評価
効率的な物流ルートの構築に向けた取組		〈成果〉 新千歳空港内の食品貨物の取扱能力が一定程度向上 シンガポールの飲食店向けの販路開拓を通じ、新規航空路線の活用が促進
航空物流網の有効活用・機能強化	航空会社、通関業者、物流企業などの参加による協議を行いながら、航空貨物物流を強化するための方策の検討などを行う調査事業を実施（道内空港国際航空貨物輸出促進事業費） SIACTにおいて冷凍・冷蔵施設の拡充や貨物受入の24時間化に向けた実証実験などを実施	
物流ルート構築に向けた実証	メロン等の青果物について、新たな直行航空路線を活用したシンガポール向けのテスト輸出や新たな鮮度保持技術を活用した船便による台湾向けのテスト輸出を実施（道産農畜産物輸出品目拡大総合事業） サハリンで開催されたフェア・商談会向けに食品等の輸送ルート検証に係るテスト輸出を実施（ロシア極東地域ビジネス展開支援事業）	〈課題〉 現地の市場や検疫通関等の情報の収集機能の強化が重要 効率的な物流ルートの構築に向けた物流の実態把握が必要 効率的な物流ルートの構築に向け、販路開拓と一体となった取組の更なる加速が重要
商流・物流一体となった販路開拓	SIACTにおける航空便を利用した鮮度保持物流の実証事業と連携し、シンガポールにおいて食材と料理メニューのセット提案による高級飲食店向け販路開拓を実施（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	

(4) 継続的な取引の拡大

海外アンテナショップにおけるテスト販売、農水産物と加工品など品目横断による商談会の開催、道の海外拠点による情報収集・提供など輸出に取り組む企業の支援に努めてきた。

項目	取組内容	評価
販路開拓の支援		〈成果〉 航空路線を活用し、付加価値が高い食材・食品の販路開拓に向けた現地ネットワークが促進 アドバイザーのフォローアップにより成約に向けた商談が進展 〈課題〉 継続取引の実現に向け現地ニーズを踏まえた商品の発掘、磨き上げ機能の強化が重要
外国人の嗜好の把握などデータ収集	国内・道内のどさんこプラザの免税店対応によるインバウンド向け販売データの収集による外国人の嗜好の把握を開始し、今後、道の駅などに提供。	
海外アンテナショップでのテスト販売	シンガポールのどさんこプラザにおけるテスト販売を通じた企業等のマーケティング支援（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	
水産品・農畜産品・加工食品を一堂に集めた商談会	シンガポールで実施した「プレミアム食材商談会」において、新規就航した直行航空便を活用した現地の高級飲食店向けの商談会を開催（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	
取組企業へのフォローアップ	海外で実施する商談会に貿易実務に詳しいアドバイザーをフード特区機構、ジェトロ、HIBCに配置し、参加企業の成約に向けた継続的なフォローアップを実施（道産食品販路拡大推進事業）	
道の海外拠点による支援	H28年1月に開設した北海道ASEAN事務所や、上海、サハリン、ソウルの事務所のほか道の海外駐在員や金融機関等とのネットワークにより、海外市場情報の収集・提供や現地での道の取組支援等を実施（道の海外拠点事務所運営費（シンガポール、上海、サハリンなど））	

(5) 北海道ブランドの浸透

海外アンテナショップを活用した情報発信や食・観光など地域の魅力を丸ごと発信する取組などを通じ、道産食品の認知度向上とブランドの浸透を図ってきた。

項目	取組内容	評価
品目横断の取組による情報発信力の強化		〈成果〉 観光や文化等との連携による情報発信により、本道のブランドの浸透が一定程度進展 〈課題〉 料理などの提案を含め、より多くの食材の魅力が浸透するよう引き続き、オール北海道の取組の加速が重要
農水産物や加工食品を一堂に集めた商談会	シンガポールで実施したプレミアム商談会において道内の著名なイタリアン・シェフにより、新鮮な地域の食材を使った料理メニューを現地飲食店向けに提案（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	
海外アンテナショップを活用した情報発信	シンガポールのどさんこプラザやバンコクの道産品アンテナコーナーを利用して現地での道産食品の情報発信を行うとともに、地域や企業の参加によるどさんこプラザのフェアをシンガポールで開催（海外アンテナショップ活用による道産食品販路拡大事業費）	
新たな地域の販路開拓	中東（UAE）において、継続的な取引のある牛肉やラーメンに加え米、魚介類、スイーツなど幅広い道産品を集めた商談会を在外公館等と連携して開催（新規市場食需要開拓推進事業）	
観光や文化を含めた北海道の魅力の丸ごと発信		
食を含めた北海道の魅力の丸ごと発信するイベント等	シンガポールにおいてweb媒体を活用し、食を含めた北海道の魅力に関する情報発信（HOKKAIDOブランド海外展開促進事業）	
	台湾における道産品フェアに観光や文化の発信コーナーを設けるなど食と観光などの連携による海外でのプロモーションの実施（道産食品・食材ブランド戦略事業）	
	ベトナムにおいて北海道の魅力を発信するセミナーや道産品のフェアを開催（ベトナムとの経済交流促進事業）	
輸出品目の拡大		
新たな魚種を含めた多様な道産水産物の魅力のPR	東南アジアなどを対象に、イワシやサバの生鮮品、秋サケの高次加工品など、新たな品目のマーケット拡大に向けた市場調査やPR販売を実施（道産水産物販路拡大推進事業）。	

3 施策展開の方向

庁内関係部局はもとより産業横断の「オール北海道」体制によって以下のテーマを中心にした取組を加速するとともに、技術開発や雇用労働などの施策と連動し、本道の食の可能性を最大限に発揮する環境を整え、食産業の更なる振興に結び付けながら、道産食品の輸出目標の達成に向けて取り組む。

1 一次製品の安定生産と輸出の体制づくり

- ア ホタテガイの生産の早期回復と安定化（ハザードマップの活用による災害に強い漁場づくり、密度管理や適期作業などの養殖技術の指導）
- イ 牛肉やホタテガイなどの輸出向け施設の整備等の促進（GAPやHACCPなど国際認証取得の促進、と畜・流通加工施設の相手国の検疫条件への対応など）
- ウ 食産業の国際競争力強化（フード特区による企業と一次産業との連携促進プロジェクトなど）
- エ 輸出先国、輸出品目の拡大（現地ニーズを踏まえた製品開発やPR、輸出先国における通年売場の設置など）

2 輸出に取り組む事業者等の裾野の拡大と輸出品目の多様化

- ア 企業等の海外展開の円滑化（海外拠点を活用した情報収集、フード特区やジェトロのアドバイザー等を活用した支援）
- イ 海外展開に取り組む事業者の拡大（地域、輸出先等に応じた輸出チームづくりなど）
- ウ 輸出商品の多様化（鮮度保持や賞味期限延長など公設試と連携した技術の開発普及、どさんこプラザを活用したテストマーケティングや定番化支援、来道外国人の購入分析を通じた商品の磨き上げ）

3 効率的な物流網の構築及びこれと一体となった販路開拓

- ア 道内と海外を結ぶコールドチェーンの構築（航空路線を活用した販路開拓、空港・港湾における冷蔵・冷凍機能の強化など）
- イ 効率的な輸送体制づくり（民間企業等との連携による混載輸送や物流の共同化など）
- ウ 商流と物流が一体になった販路拡大（航空路線を活用した飲食店向けの販路開拓など）
- エ 継続的・安定的な販路の拡大（道や金融機関の海外事務所やどさんこプラザなどを活用した情報収集と取引実現に向けた支援、道内支援機関の連携によるきめ細やかなハンズオン支援）

4 北海道ブランドの効果的な浸透

- ア 地域製品の認知度向上・ブランド構築（来道外国人を通じた地域製品の海外発信など）
- イ 食の北海道ブランドの浸透（友好提携を活用した北海道の多様な魅力の発信、新たな魚種を含めた多様な道産水産物の魅力のPRなど）
- ウ 産業間の連携強化（品目・地域横断による商談会、料理メニューの提案などによる農水産物・加工品の魅力発信など）
- エ 新市場の開拓（中東向けテスト輸出を通じたPRとノウハウ集積など）
- オ ブランド保護（ジェトロなどとの連携による知的財産保護、道産食品輸出用シンボルマークの浸透など）

※ 取組の加速

- ア ASEAN事務所やどさんこプラザなど海外拠点のもつノウハウとネットワークの効果的な活用
- イ 食クラスターやフード特区の新計画の推進などによる業界の垣根を越えたオール北海道の連携の強化

取組状況

[道等の取組状況（平成28年4月～平成29年3月）]

○基本戦略

戦略	取組項目	主な取組状況
商流・物流網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■商流確立に向けた支援 ■物流機能の整備・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○品目ごとに関係者が連携して取り組む農畜産物のテスト輸出や商談会の開催 ○アドバイザーの配置による道内企業の海外展開支援 ○国際航空貨物の輸送促進等調査 ○北極海航路を活用した物流ルート構築に向けた実態調査
輸出支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■輸出可能な商品の生産・製造の拡大 ■道や関係機関・団体・企業の連携による輸出支援体制の確立 ■北海道ブランドの浸透など 	<ul style="list-style-type: none"> ○一次製品の安定生産に向けた取組 ○道産食品輸出拡大戦略推進協議会の設置・開催 ○海外アンテナショップでのテスト販売及びプロモーション ○多様な道産品を一堂に集めた北海道フェアの開催
新たな市場への展開	<ul style="list-style-type: none"> ■食材輸出の拡大 ■イスラム圏市場の需要獲得 ■機能的食品の販路開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ○現地の料理関係者を集めた日本の食材と食文化のプロモーション ○生産者団体との連携によるブリ、サバ、イワシやサケの高次加工品を主体とした市場調査や製品PRなど販路開拓の推進 ○イスラム圏市場の開拓に向けた商談会の開催 ○機能的食品、スイーツの販路開拓に向けた商談会の開催

○品目別展開方向（推進プラン）

(1) 水産物・水産加工品

重点品目	推進プラン	主な取組状況
ホタテガイ	ブランド保護による既存輸出先の販路維持【中国等】	生産者団体による中国における実態調査や商標保護等ブランド保護対策の実施
	高付加価値市場向け販路開拓【EU、アメリカ等】	ホタテガイの生産回復の取組 海域モニタリングを実施するとともに、国の施策の活用、水産加工業者を対象とした講習会の開催による対米・対EU-HACCP認定取得の促進
サケ	加工原魚向け安定的な販路の確保と高付加価値市場の開拓【中国、ASEAN、EU等】	資源回復に向けた調査・研究を進めるとともに、国の施策の活用や水産加工業者を対象とした講習会の開催による対米・対EU-HACCP認定取得の促進 産業団体と連携したASEAN向けの販路開拓
高次加工品	新規販路の開拓【シンガポール、タイ、香港、台湾、中国等】	生産者団体と連携し、シンガポール、タイ、マレーシア、香港において秋サケ加工品などの市場調査、製品PR
高鮮度商材	アジア富裕層向け販路開拓（飲食店）【シンガポール、香港、中国等】	生産者団体との連携によるブリ、サバ、イワシを主体とした市場調査や製品PRなど販路開拓の推進 SIACTにおける国の施策を活用した機能強化や24時間操業の試験の実施

(2) 農畜産物・農畜産加工品

重点品目	推進プラン	主な取組状況
コメ	ASEAN・東アジアにおける販路拡大【香港、シンガポール、タイ、インドネシア等】	生産者団体によるミネラルウォーターと無洗米のセットによる販売・プロモーションの実施 ハワイへの玄米テスト輸出・プロモーション 道・ホクレン・ぎょれんの連携によるバンコクでの和食プロモーション等
	コメ加工品（日本酒）の販路拡大【シンガポール、香港、中国等】	酒類メーカーと連携したシンガポールでのプロモーション
	中国市場の販路構築【中国】	上海における北海道米「ゆめぴりか」のトップセールス 蘇州におけるレトルト米飯プロモーション
青果物	ながいもに係る販路拡大【アメリカ、シンガポール、マレーシア、台湾等】	生産者団体が地理的表示保護制度（GI）を申請し登録（帯広川西長いも）十勝・オホーツク地域での輸出力アップセミナー
	青果物に係る販路拡大【台湾、シンガポール、香港等】	各国検疫条件に対応した施設整備の支援（台湾向けりんご） 道・ホクレン・ぎょれんの連携によるバンコクでの和食プロモーション等 LCC（スクート）を活用した青果物のテスト輸出 新たな研究成果などを生かした船便による青果物の鮮度保持技術の実証 台湾、韓国、ロシアに向けた道産タマネギの販路拡大
牛肉	ASEAN向け販路拡大【シンガポール、タイ、ベトナム等】	北海道産牛肉のシンガポール・タイ・ベトナムでのプロモーション 道・ホクレン・ぎょれんの連携によるバンコクでの和食プロモーション シンガポール向け輸出食肉取扱施設認定
	新規市場向け販路構築【アメリカ等】	米国向け食肉検査業務体制を整備し輸出施設の認定申請に向けて支援

(3) その他加工食品

重点品目	推進プラン	主な取組状況
菓子類	新規・成長市場向け販路拡大【香港、台湾、シンガポール、タイ、中東等】	菓子メーカーの輸出機運醸成に向けたフォーラムの開催及び海外バイヤーを招へいた商談会 海外アンテナショップによるマーケティング支援 スイーツ等の販路開拓に向けた海外商談会等の開催
	既存市場におけるブランドの再構築【中国、韓国、ロシア等】	現地事務所における情報発信支援
機能性食品	成長市場向け販路開拓【ASEAN、香港、台湾、中国、アメリカ等】	機能性食品の販路開拓に向けた海外商談会等の開催 北海道バイオ工業会と連携した機能性食品のセミナーのシンガポールでの開催 どさんこプラザ札幌店などにおけるインバウンド向けプロモーション 現地事務所のSNSを活用したインバウンド向けイベント情報の発信

○国・地域別展開方向

国・地域	主な取組状況
ASEAN	現地事務所（ASEAN事務所）や現地に配置するアドバイザーを活用した商談支援や情報発信 市町村、地域の企業、生産者などが一体となった輸出拡大の取組の支援 北海道の「食」などをPRするため、セミナーや道産食材を用いた料理の提供によるレシピ セッション開催などのプロモーションの実施 品目毎に関係者が連携して取り組む農畜産物のテスト輸出や商談会の開催 現地の料理関係者を集めた日本の食材と食文化のプロモーション・商談会
中国、台湾、香港、韓国	市町村、地域の企業、生産者などが一体となった輸出拡大の取組の支援 現地事務所（上海事務所、ソウル事務所）を活用した現地情報の提供やプロモーション 品目毎に関係者が連携して取り組む農畜産物のテスト輸出や商談会の開催
ロシア	現地事務所（サハリン事務所）を活用した道産食品の認知度向上に向けたプロモーション ユジノサハリンスク市内のスーパー内に「北海道コーナー」を設置し道産食品のPRを実施 商品の発掘やフェア・商談会の開催による輸出に取り組む道内企業の支援 北極海航路を活用した物流ルート構築に向けた実態調査
欧米	水産物における対米・対EUのHACCP認定取得の促進 米国向け牛肉と畜・加工施設の整備及び輸出食肉取扱施設認定の支援 市町村、地域の企業、生産者などが一体となった輸出拡大の取組の支援
中東	UAEにおける水産物、コメ、青果物、牛肉等の商談会を開催 UAE向け輸出牛肉に係る食肉衛生証明書の発行、牛肉のテスト輸出

○テーマ別展開方向

テーマ	主な取組状況
道産食材輸出プロジェクト	地域や生産者団体と連携し、新規航空路線を活用した物流の実証実験を行いながら、農畜産物・水産物・加工食品を一堂に集めたハイエンドの飲食店向け商談会をシンガポールにおいて開催。 ○産地における取組 ・輸出促進に向けた生産者団体、行政、関連事業者による連携体制の構築 ・シンガポール向け牛肉輸出施設の認定の取得 ○海外展開の支援 ・札幌国際エアカーゴターミナル（SIACT）における輸出物流円滑化に向けた実証事業 ・新規航空路線を活用した輸出ルートの構築 ・シンガポールにおけるハイエンドの飲食店向け調理提案・商談会の実施 ・商談会における地域や生産者団体によるプロモーション ・どさんこプラザシンガポール店における商品PR ・現地アドバイザーによるフォローアップ（ターゲット顧客訪問）
高付加価値食品輸出プロジェクト	輸出に取り組む事業者が効果的に取引に結びつけられるようバイヤー招へい、商談会、プロモーション等の取組を組み合わせ、販路拡大の取組を推進。 ○発掘 ・道産スイーツの輸出機運醸成に向けたフォーラムの開催 ・地域の企業訪問・調査による商品の掘り起こし ・バイオ業界、菓子業界と連携した海外販路開拓 ・免税対応した道内外のどさんこプラザにおける来日外国人の購買データの蓄積、分析 ○磨き上げ・支援 ・6か国の海外バイヤーの招へいによる現地ニーズの把握 ・海外アンテナショップを活用した商品PRや磨き上げ支援 ・テスト輸出による輸出可能性の検証 ・海外事務所による現地情報の提供や現地での取組支援 ・事業者向け個別相談機会の提供 ○商流の確立 ・商談会の開催による販売先とのマッチング ・現地アドバイザーによる商談支援・フォローアップ ・外国語版パンフレットやWebサイトの作成によるインバウンド向けPR ・フェア開催による北海道ブランドのPR ・北海道バイオ工業会と連携して機能性食品のセミナーを開催

新規市場開拓プロジェクト	<p>牛肉のほか水産物、農畜産物、加工食品の販路開拓に向け、テスト輸出と商談会を組み合わせ、効果的な市場開拓を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取組企業の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー開催（全道6地域）による販路開拓に向けた知識の周知、企業訪問・個別相談実施 ○輸出環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・テスト輸出による輸出可能性や市場可能性の検証 ・ホルスタイン種、交雑種といった牛肉の試験と畜・テスト輸出による市場可能性の検証 ○認知度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・テスト輸出商品に係る現地流通網へのセールスコール・ヒアリング・商談会の開催 ・食を含めた北海道の魅力を丸ごと発信
共同物流システム確立プロジェクト	<p>国の事業を活用した実証試験や品目ごとのテスト輸出など新たな物流機能や物流ルートの構築に向けて関係機関の連携のもと取組を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商品開発 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業訪問・調査による商品の掘り起こし ・海外アンテナショップを活用した商品PRや磨き上げ支援 ○物流網の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・取組の基礎となる航空貨物物流実態調査 ・空港、港湾における物流機能の強化 ・新千歳空港における貨物受入の24時間化等に向けた実証事業 ・航空物流に関する関係者連絡会議の開催 ・鮮度保持技術の実証事業 ・新たな航空路線を活用したコストや鮮度保持の実証事業 ・テスト輸出による輸出可能性の検証 ○商流の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・商談会の開催による販売先とのマッチング ・現地アドバイザーによる商談支援・フォローアップ

○ その他

テーマ	主な取組状況
技術開発・普及等	<p>道総研、地域食品加工技術センター、工業技術センターが、関係機関と連携し、農業、水産業、工業、食品産業等の分野に関する試験、研究、調査、普及、技術開発、技術支援等を実施。</p> <p>〈技術の開発・普及〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテ殻剥き機、ジャガイモ皮剥き機、ジャガイモ芽取り機 ・アシストスーツ（高齢者等の作業支援～昆布作業用・農作業用） など <p>〈新商品開発の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術相談・指導、移動食加研・工試 ・試験・分析、試作実証施設使用、研修者受入、インキュベーション施設貸与 など
人材の育成・確保	<p>雇用創出基本計画に基づく、雇用の受け皿づくり、就業の促進などの取組を推進。</p> <p>〈就業促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求職者向けセミナー、企業見学会、企業説明会 ・企業向け人材確保セミナー など <p>〈人材育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域フード塾（マーケティング人材） ・衛生管理、品質管理等の訓練・セミナー など

○連携推進体制

<p>〈庁内連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副知事、庁内関係部長等で構成する「食の輸出拡大戦略推進本部員会議」を開催し、品目分野ごとの輸出の実績や課題などを踏まえ、関係者が共通の認識に立って、商流と物流が一体となった新たな海外販路の開拓など連携の取組を推進。 <p>〈産業間連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次産業や食品加工業をはじめとする関係機関で構成する「道産食品輸出拡大戦略推進協議会」を3回開催し、輸出拡大に向けた課題や対応策などについて情報交換等を行うとともに、輸出実務ノウハウをもつ機関で構成される「海外販路開拓支援プラットフォーム」を活用し、道内事業者の販路開拓の取組をハンズオン支援。
--

○道内の動き

(1) 輸出施設の整備

- ・水産食品のHACCP認定施設～対米輸出施設が新たに3か所認定（平成28年3月、8月、9月）
- ・と畜場～シンガポール向け牛肉の輸出食肉取扱施設として初めて1か所認定（平成28年8月）
米国向け牛肉の輸出食肉取扱施設の認定に向けて米国基準に適合した体制等の整備中

【主な認定等】

対米・EU水産食品HACCP認定施設	H26年末現在71施設 → H27年末現在80施設 → H28年末現在82施設
台湾向けりんご選果こん包施設登録	H26年末現在 0施設 → H27年末現在 0施設 → H28年末現在 2施設
牛肉の輸出食肉取扱施設認定	H26年末現在 3か国 → H27年末現在 5か国 → H28年末現在 6か国

(2) 企業等の状況

海外向けの商談会の参加企業数や産地証明書の発行枚数が増加しており、輸出に取り組む企業のすそ野が拡大。

海外向け商談会参加企業数 (のべ)	H26年度 273社 → H27年度 353社 → H28年度 465社 (うち国内249社/海外24社) (うち国内332社/海外21社) (うち国内330社/海外123社)
産地証明書の発行枚数 (農産物、加工食品)	H26年度 2,700件 → H27年度 3,900件 → H28年度 4,140件

※平成28年度は平成28年2月末現在。

(3) 積極的な海外展開（事例）

- ・魚介類の鮮度保持のために道東の企業が開発した窒素氷を使って酸化を抑える技術を採用した水産加工拠点を整備し東南アジア市場を開拓（道東の卸市場、輸出先：東南アジア）
- ・専門商社と連携し、中国へ「ゆめぴりか」をテスト輸出。上海市内の高級スーパーにおいて販売するとともに、知事によるトップセールスを実施（ホクレン、輸出先：中国）
- ・たまねぎの輸出へ向けて農業団体と企業等が協議会を設立し、ロシアでプロモーションを実施（北見産農産物輸出促進協議会、輸出先：ロシア）
- ・海外輸出に向けて北海道食品加工研究センターと共同で「道産100%素材」の菓子を開発（道央のスイーツメーカー、輸出想定先：東南アジア、台湾）
- ・海外で16の販売店舗を展開し、フード特区制度を活用した工場生産した冷凍半製品を現地で調理・販売。（道央のスイーツメーカー、輸出先：中国、台湾、香港、韓国、タイ、シンガポール）